

清水敏允先生退職記念号によせて

経済学部長 後 藤 晃

清水敏允先生は、2003（平成15）年3月31日付けをもって定年でご退職になりました。本学には1991年に教授として赴任され、12年のご在職でした。この間、教育研究はもとより、評議会評議員や大学院経済学研究科の委員長などを歴任されるなど本学および経済学部のために多大な貢献をなされました。心より感謝申し上げるとともに、ご退職を深く惜しむものであります。

先生が歩んでこられた道はまことに豊かなものであります。1956年、上智大学文学部を卒業された後、一時期出版社などで勤務された経験がありますが、1962年に新たな船出をなさいます。スイスのザンクトガレン大学の修士課程に入学され、ここからさらにドイツのケルン大学の修士課程に移って研鑽をつまれて、1970年にケルン大学経済・社会科学部の博士課程において「日本の結合企業の構造分析（邦訳）」と題する論文で学位を取得されました。この海外でのご経験が先生の研究を方向づけ豊かなものとしたと推測しております。学位を取得されて程なく、独協大学経済学部助教授に就任されます。以来、同大学教授、福島大学経済学部教授を経て、本学経済学部教授に就任されてからは学部発展のために教育・行政のさまざまな場で敏腕を振るってられました。

先生のご専門は経営学ですが、なかでもドイツ経営学にもっとも造詣が深いようです。ご著作のなかで『ドイツ経営学』（光文社1978年）、『西ドイツの輸出競争力と産業構造』（教育社1989年）は、ドイツ経営論、ドイツ企業の経営研究を体系化された優れた研究成果であり、この専門領域で先生は日本における第一人者であると聞いております。またドイツ語による多数の著書や論文を通して、日本の経営組織や企業、技術移転などについて海外に紹介をされ、国際的な場で活躍をしてられました。さらに社会科学系学部の学生に向けて、『工業経営学の基礎』などの啓蒙本も著してられました。

こうした研究はさらに後続の研究者によって引き継がれていくと思われませんが、先生ご自身からは「私はまだ研究の途上なのだ」と言い返されそうな気がいたします。それほど先生は若々しくいまだに青春をかもし出しておられ、なおしばらくの間教壇にお立ちいただけるのをよろこびとしております。健康に留意され、ますますお元気にご活躍くださいますようお願いしております。

本記念号の出版は、ご退職の機会をとらえて、ささやかながらこれまでのご苦労をおねぎらいし、また学恩に対する感謝の気持ちを先生にお伝えすることを念じてのことです。